

秋田市総合教育会議
会 議 録

平成27年度第1回

平成27年度第1回秋田市総合教育会議会議録

- 1 日 時 平成27年6月3日(水)
午後3時30分～午後4時40分
- 2 場 所 市役所正庁
- 3 出席委員 市長 穂 積 志
教育委員長 前 川 重 明
教育委員(委員長職務代行者) 野 口 かおり
教育委員 進 藤 光 子
教育委員 石 田 英 憲
教育委員(教育長) 越 後 俊 彦
- 4 出席職員 企画財政部長 工 藤 喜根男
企画財政部次長 佐々木 吉 丸
企画調整課長(事務局) 細 谷 佳 宏
企画調整課参事(事務局) 齋 藤 一 洋
企画調整課主席主査(事務局) 稲 川 興
- 教育次長 渡 部 和 王
教育次長 佐 藤 孝 哉
総務課長 松 山 則 人
学事課長 佐 藤 涉
学校教育課長 加賀谷 亨
教職員室長 細 谷 直
教育研究所長 工 藤 隆
文化振興室長 工 藤 淳
スポーツ振興課長 佐々木 亨
生涯学習室長 工 藤 伸 二
総務課長補佐 越後谷 優
総務課主査 佐 藤 寛 也

5 協議題

【協議事項】

- (1) 「秋田市総合教育会議運営要綱」を定める件
- (2) 「秋田市教育に関する総合的な施策の大綱」を定める件

6 議 事

午後3時30分開会

【市長挨拶】

市長

先の土・日曜日に行われた東北六魂祭は、仙台で1回目が始まり、秋田での開催で5回目になるが、震災で亡くなられた方々の御霊を追悼するという思いと、東北の復興を一日も早く成し遂げよう、心を一つにして頑張っていこう、この思いから六魂祭が始まったものであり、この2日間、26万人という大勢の方々にご来場いただき、また大きな混乱もなく終えたと言うことは、市民の皆様はじめ関係する皆様のご理解とご協力の賜物であると感じている。昨年は国文祭があったわけであるが、秋田市でも12事業13イベントを開催し、大勢の皆様、また子ども達にも参加いただき、被災地の小学生を招待するとか、また小学生同士の催しの中で友情を育むこともでき、そういった意味で伝統文化等を継承するという、芸術文化によるまちおこしについても貢献できたかと思っている。

今年はその延長線上に商工会議所等が中心になり、「政吉とフジタ」というミュージカルを中心市街地のAUでこの8月30日から12月13日まで開催することとなり、そこにも秋田市内の小中学校全てに声をかけさせていただき、そして無料でご招待するというので、秋田の文化・巨匠等に触れていただき、秋田の誇りといったものを感じとっていただければと思っている。

また、今回の教育委員会制度の改革だが、その大きな柱

となったのが、「総合教育会議」であり、今日こうして開催させていただいた。普段から皆様とはいろいろな意見交換させていただいているが、今後とも協議・調整の機関として一層充実されるものと思っている。

ただ、私が心配しているのは、政治が教育に介入しすぎるといふ部分では、戦前・戦中の反省から教育委員会は独立した機関であり、今までも首長の意向があまり入りすぎないように、一步おいたところにあつたわけだが、今後も基本的には教育委員会にある程度のことはおまかせしながら、同時に様々なことについて忌憚ない意見交換をさせていただき、前に進められればありがたいという気持ちである。

本県の小中学校における学力能力は大変高いものであり、健康・体力等についても上位である。こうした体力・知力、また渦中の道徳が教科としてできるようなので、そういったところで配慮し、皆様の知恵をいただきながら、まず小中学生が自分で人生を切り開いていく、そういったたくましさを備えるような、今ある良い部分を引き出せるような教育に意を用いていただければありがたいと思う。

【教育長挨拶】

前川委員長

教育委員会制度は教育の地方分権や教育行政への民意の反映を目指して戦後間もない昭和23年に創設された。その後、昭和31年には教育委員の公選制の廃止、教育委員会による予算案・条例案の議会への提案権の廃止などの大幅な制度見直しが行われた。それ以来約60年にわたって、抜本的な見直しは行われずに制度が維持されてきた。しかし、現代に至って、地方教育行政について多くの課題が指摘されてきたことは皆様の承知のとおりである。特に、いじめによる子どもの自殺などの重大な事件に関して、教育委員会における権限や責任の不明確さなどから迅速さ・機

第1条の4第6項およびただいま決定いただいた要綱第4条に基づき、本日の会議を公開することとする。

(傍聴人・報道関係者入室)

【協議事項】

(2) 「秋田市教育に関する総合的な施策の大綱」を定める件

市長 協議題(2)の「秋田市教育に関する総合的な施策の大綱」を定める件について、事務局から説明をお願いします。

企画調整課参事 この度、秋田市教育に関する総合的な施策の大綱の案をまとめるにあたり、本市総合計画および教育ビジョンに基づき、これまでの施策の方向性を捉えて案としてまとめさせていただいた。本市の総合計画においても急速な少子高齢化の進行、人口減少など社会情勢の変化を捉えて次の世代に引き継ぐことができる元気な秋田市づくりを進めている。そうした中で市民一人一人が能力や個性を發揮できるということで、将来都市像の一つに「人と文化を育む誇れるまち」を掲げ、教育の充実、文化の創造に取り組んでいる。

現教育ビジョンについても、この流れを捉えて5つの部門ごとに平成29年度までの本市取組の目指すべき方向性を明確にし、充実させるための重点施策を示している。こうしたことから、大綱の基本方針についても、この流れを踏まえて案を策定させていただいた。

(別紙2に基づき説明)

ただいま説明した資料2の案は、教育ビジョンと期間を合わせて、平成27年度から平成29年度までの期間の本市の総合的な施策の大綱の案としている。協議の方よろしくをお願いします。

市長 ただいま説明があった件について、意見質問等あるか。

前川委員長

意見ではないが、この中に掲げている教育環境整備部門の「学校施設の長寿命化計画に基づく学校施設の整備について」だが、これはすごく時宜を得た施策ではないかと思う。学校施設は子ども達が日常生活する重要な場であるが、最近では老朽化がかなり目立ってきている。これは先送りできないような重大な課題と考えているが、それが大綱の重点施策として盛り込まれたことは大変ありがたい。

今年秋田市では、「秋田市学校施設長寿命化計画」を策定するという事になっているが、「学校配置の適正化」も一緒に並行実施することになると思うが、限られた財政状況でかなり逼迫しているわけであるから、学校別・施設別の優先度の整理がうまくなされることとは思うが、多額の経費がかかることは火を見るより明らかである。そういうことからこれは喫緊の政策だと思っているので、是非とも整備を着実に進めていただきたい。

市長

子ども達が学習しているところで安全安心を確保するのが最重要事項であるので、できるだけ整備を進めていきたいと思っているところであり、特に秋田市内では南中と思うが。

越後教育長

現在、南中の使用していない校舎が一棟あり、今年度解体することになっている。道場が一つあり、今年度中に校舎を解体した後、新しい道場を建て、古い道場を解体する。それで本市の耐震化率は、今年度中には100%になるという状況である。

市長

また、吊り天井等もあり、それについても27年、28年で改修したいということで、予算付けをしていきたいと思っている。その他照明を含めた部分についても、随時対応していきたいと思っている。適正規模と適正配置も文科省のほうから基準が出ていて、平成42年度まで見通すと小学校で19校、中学校で7校が検討対象になりうることから、そういった部分で27年度に適正配置検討委員会を

設置する予定になっている。

越後教育長

適正配置計画については、機械的に基準に合わせて統廃合ということではなくて、10年後20年後の秋田市の状況を想定した場合にどうあるべきかという基本的な考え方を今年度まとめて、それに応じて具体的な取組をしていきたいと考えている。一昨日第1回の会合を開催して、委員の皆様には現状の認識を共有していただいたところである。本市の児童生徒数は、15年前の平成12年度と比べると当時の80%に減っている。今後15年たつと12年度の53%になるという状況の中で、秋田市としての適正な学校はどうあるべきかということをしつかりと検討してまいりたい。

市長

私からは最後に、秋田市の公共施設総合管理計画を28年度までには策定したいと思っているので、その中で学校施設の長寿命化計画とあわせながら検討させていただきたい。企画財政部の方で基金を30年度までに50億を積み立てることとしているはずだが。

企画財政部長

公共施設整備基金というものを27年度設置して、4年間で50億円積み立てようと考えており、それを活用しながら計画的な修繕などを行っていきたい。

市長

学校も入るのか。

企画財政部長

入る。

市長

計画的に長寿命化、整備、耐震に意を用いていきたい。

石田委員

重点施策5の教育環境整備部門の(9)学校給食費の公会計化についてである。学校給食費については、各学校が給食費の収納管理や未納対策等を行う「私会計」方式を採用している。学校給食費の取り扱いについて、文部科学省は学校での取り扱いを容認しているものの、総務省は会計事務のより一層の透明性の確保の観点から公会計が望ましいとの見解を示している。また、現状では、教職員が収納管理や未収金対策等給食費に関係する多くの事務を行ってお

り、公会計化により、学校事務の負担の軽減が図られ、ひいては学校教育の充実が期待できることから、学校給食費の公会計化をぜひ進めるべきと考える。

市長 議会でいろいろな意見があり、公会計化すべきだという議員の指摘を受け、前教育長も前向きに検討したいという答弁をしており、今年度はその準備に入るということで意思統一された。

越後教育長 学校給食費の公会計化は長年の課題であり、昨年度委員会内で調査・研究を将来的なランニングコストも含めてトータルとしてどういうシステムが適切なのか、案をいくつか想定してまとめたところである。今年度、給食諮問委員会を開催して、そこで諮問をいただいた上で具体的な取組準備を進めていく予定である。

市長 結局負担した方々と負担していない方々があり、負担いただいた中で全ての給食を出すわけで不公平感もあるだろうし、不公平感をなくした公にできる会計制度にして定着できればと考えており、様々な意見を聞きながら進めてまいりたい。

越後教育長 今回提示された大綱はこれまでの教育ビジョンの理念や方針に沿った内容であり、今回大綱という形で整備されたことを受け、改めてその実現のために取り組んでいかなければいけないと思いを新たにしている。また、新たに加えられた、5の教育環境整備部門の学校給食調理場の再編については、学校の適正化配置計画および長寿命化計画との整合性を図りながら、中長期的な観点から着実に進めていく。先ほどの、長年の懸案であった給食費の公会計化についてもできるだけ早期に実現できるように進めてまいりたい。

※ 協議事項(2)については、全員賛成で承認された。

【意見交換】

(道徳教育の充実について)

- 市長 道徳が教科化されるが、実際の現場の声や、どのように評価するのかなどについて伺いたい。
- 越後教育長 いじめ等々の問題がきっかけとなり、道徳の充実ということで、教科化という動きになっている。
- 課題としては、評価が一番のテーマである。国で検討中だが、方向性としては、数値による評価はせず、子どもの成長度合いを文章表現するということである。具体的な観察手法などについては、これから明らかになるものと思う。
- もう一つは教科書だが、学習指導要領に沿って各出版社が作成に向けて取り組んでいくところであり、文部科学省としても、教科書を主としながら、他の様々な資料を活用して授業を行う方向を示している。
- 一般的に、価値の押し付けになるのではないかなど、様々な意見があるが、教科化により充実した道徳教育にしていかなければならない。
- 前川委員長 毎年の学校訪問では道徳の授業参観の機会もあるが、各学校で異学年交流が盛んに行われていたり、中学生サミットの中で宣言を出したりと、生徒同士が論じ合い、お互いに他者との違いを認め合う中で、自然と培われる状況がかなり浸透している。
- もちろん、教育現場で教材の使い方を含めた様々な工夫が必要だが、やはり最後は最大限子ども達に寄り添い、それぞれ道徳性がじっくり育まれることが一番望ましい。
- 道徳の場合には、学校教育に加え、家庭、地域が一体となって取り組まなければならない、そういった部分を盛り上げられるようなきっかけがあれば良い。
- 野口委員長職務代行者 教科化ということで、50分の時間の中で一つのテーマを先生がリーダーとなって進めていくと思うが、それぞれ

の子ども達が様々な考えを持っている。各家庭にもそれぞれの考えがあり、その考え方や物の捉え方を先生が一つにまとめるのではなく、色々な考え方を持っているから皆で考えようというような展開をしてもらわなければ、親としては少し心配なところもある。

ただ、学校訪問で各学校を見る限り、先生方は非常に子ども達の意見を汲み上げながらディスカッションを重ねており、今後は更にそれを広めていただきたい。

進藤委員

教育現場における道徳教育は、週1コマの道徳の時間だけではなく、子ども達の当番活動であったり、学校行事であったり、学校の教育活動全体を通じ、色々な場面で道徳的实践力が培われ、道徳教育が推進されている面もある。

道徳の授業については、道徳的な心情の価値を一つに絞って、子ども達がそれぞれの意見を述べながら、その価値に向かっていくということで、先生達は工夫しながら授業を展開していると感じている。

また、学校教育だけにとどまるものではないことから、家庭、地域、学校が情報発信をしながら、一緒になって取り組まなければならない、教科化で解決できるものではないと思うところもある。

今年度初めのPTAで、授業参観が全学年全クラス道徳の授業だったことが取り上げられ、保護者は割と新鮮に受け止めていたようであった。また、学校としても、家庭、地域と連携して、一緒になって推進していくという方向が強く打ち出されていると感じた。

個人的には、子ども達ができるだけ感動体験を共有し合えるような形で、活動を積み重ねながら、仲間意識や相手を思いやる道徳的心情、実践力が一層推進されていけば良いと考えている。

石田委員

道徳について、授業だけで学ぶのではなく、学校以外の生活においても、学校で学んだことを実践できるよう、地

域や家庭でもしっかりとサポートできる体制が必要ではないか。

評価のあり方については、多様性を確保しつつ、個人の考え方を大切にしながら、これまでも充実した道徳を実践してきたところだが、教科化によって更に充実するよう進めていきたい。

市長

先生自身の研鑽を含めた体制となるのか。

越後教育長

戦後、道徳は教育課題というより、政治課題として取り上げられるケースが多かった。今回の教科化を巡って、ようやく道徳を教育課題として、どのような力を身に付けさせるかなど、様々な形で論ぜられていることは、教科化の一つの良かった点である。併せて、大学の教員養成課程中でも道徳指導は少なかったが、教科化をきっかけに、道徳教育の更なる充実を期待したい。

ただ、今は評価手法などにだけ目が行き、何のために教科化するのか、道徳とは何かという議論が忘れ去られてしまうことを危惧している。そういう意味では、その辺りも含めて教職員研修の充実を図っていく必要がある。一昨年秋田市で行われた道徳の全国大会は非常に評判が良かったことから、これまでの取組を引き継ぎながら、更に充実させたい。

(文化財活用の推進)

市長

選挙公約や総合計画において、地域の活力として生かさないかということで、文化、歴史を取り上げている。文化財には必ず物語があり、建物の場合は壊すと歴史が閉じ、引き継がれた物語も後世に残らず消えてしまう。如斯亭にも色々な議論があったが寄贈いただいて市が保存し、旧松倉家住宅についても活用方法を考えている。

昨日の市政番組収録で、6冊目となる泉五庵山・手形地

区の文化財イラストマップを紹介したが、地域の隠れた文化財をぜひ知ってもらい、特に子ども達や県外からの来訪者に見て回ってもらいたいが、現在の取組に対して感じていることなどがあればお話いただきたい。

前川委員長

文化財イラストマップは、足元の文化を見つめ直すには格好の材料であり、市民の盛り上がりが出て来ていると感じる。数年前からは、文化財のネットワーク化を進めたり、色々なセットで観覧できるような仕掛けを作ったりと、様々な工夫がされているが、それがいまひとつ市民に浸透していない気がする。ただ、文化財イラストマップに関しては市民の関心が高く、学校教育の中でも使われていることと思う。今後、県外、全国にも発信するのであれば、発展性があるのではないかと。

如斯亭については、教育委員会でも活用方法を考えているが、可能であれば、宿泊はできなくとも、そこへ行けば秋田の文化事情が分かるというような、ゲストハウスのような活用も考えられれば、市民の見方も変わってくる。

野口委員長職務代行者

如斯亭など、文化財はただ見るだけではなく、実際にそこで何か動きがあったり、人が働いていたり、何かを作っていたり、昔あったものが再現されていたり、人が住んでいたりとすることがあれば、魅力が倍増するのではないかと。ぜひ、教育委員会と他の部局とが連携しながら文化財を活用し、魅力ある観光資源として様々な切り口で推進していただきたい。

文化財イラストマップについては、スマートフォンを使った電子版や動画配信など、若者が見やすい形を作っていたら、夏休みの研究などに活用できれば面白いのではないかと。

市長

現在、スマートフォンで動画配信はしていなかったか。

文化振興室長

この度作成する電子版の文化財イラストマップについては、動画が見られるようにしたい。

(児童生徒の安全確保)

- 市長 小学校等の事件を受けて、各小学校への警備員の配置や、見守り隊も各地区でかなり進んでいるようだが、それに関してご意見等があればお知らせいただきたい。
- 前川委員長 平成13年の池田小事件があつてから、秋田市の対応はかなり早かったと認識しており、学校内の安全を図る意味で最初の防波堤となるため、様々な体制作りなど、負担もあると思うが、ぜひ継続していただきたい。
- 同時に、車が通学中の子ども達の列にという話が散見される時代であり、通学路を含めた安全についてもかなり言われているが、昨年から総点検をした上で、かなりのチェック体制が作られており、今後も推進していただきたい。
- 石田委員 警備員に関しては、継続して配置する体制が良いのではないか。事前の観点からも、専門的な知識を持った警備員がいることは、非常に迅速な対応ができ、また事後的にも何かあつた際には直ぐに対応できる。有事の際の市の対応として、警備員の配置の有無は非常に大きいものがある。そのような危険は常にあるため、秋田っ子まもるメールにはかなりの登録数があり、そういった意味で社会全体で見守る体制作りを充実させる必要があるのではないか。
- 市長 見守り隊は全小学校にあるのか。ジャケット等を支給してるのか。
- 学事課長 見守り隊はボランティア活動であり、それぞれの団体毎に独自に上着や帽子を揃えて活動いただいている。
- 市長 各市民サービスセンターに配当している地域づくり交付金の活用を検討し、使えるようであれば情報提供するように。
- 進藤委員 防犯については、社会全体で子どもを見守る体制が一番良いのではないか。秋田市では、大変可哀相な事例は耳に

しないが、万が一あった場合、その子にとっては一生心の傷として残り、精神的ダメージが大きい。安全安心を守るのは、地域社会全体でということになっていくのではないか。

ひと頃、この安全安心が学校教育の中に大きく位置付けられた当時を振り返ると、知らない人には声を掛けるなどの指導で、この先子ども達はどのように育つのか、逆に心配してしまう状況であった。しかし、今は子ども達の方から地域住民へ挨拶し、地域の人々が喜んでいる状態であることから、これからも子ども達が地域と交流できる雰囲気醸成していければと思っている。

野口委員長職務代行者

地域に小中学生がいない町内もあり、何かあった際には直ぐに学校に連絡をすれば良いが、家の前を通る子どもがどこの学校か把握できないことも多々ある。今後、そういった町内が増えるため、地域における学校のあり方を考え、町内会と学校が密に連絡を取り合い、皆で見守る形がきちんと作られるようにしてもらいたい。

市長

安全安心に関連して、災害への備えも大事であるが、もし可能であれば、今後に活かしてもらえるよう、東日本大震災の被災地の小学校を委員の皆様に見学いただき、いざれご意見を聞かせていただきたい。

【その他、次回の日程についての報告】

企画調整課長 次回は、来年度の教育関係予算についての方針などを協議議題として、予算編成前の10月頃の開催を考えている。

午後4時40分閉会

以上